

おいしいお米の秘密

附属新潟中学校 二年 丸山 はづき

私の家では365日毎日お米を食べています。つやつやと輝く、あ。つあつのゆげ立ったきたてのご飯は本当においしく私の大好物です。また納豆や生卵をかけて食べるとまた違う味が楽しめます。いくら食べてもあきません。そんな私を毎日ホッとさせてくれるキラキラ輝くおいしいお米。でも私はそんなお米の表面しか見えていませんでした。私にそのこと

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁

を教えてくれたのは小学生の時にあった田植体験です。

私の通っていた小学校では小学5年生になると田植体験がありました。でも一度も田植をしたことのない私はそれがどんなものか全然分かりませんでした。そして田植なんて苗をただ植えるだけで楽だろうと思っ
ていました。

田植、当日の日。太陽がジリジリ照る暑い

中田植が始まりました。広い田んぼにただひ

たすらに、きれいに苗を植えていく作業。それは私が始めに考えていた作業よりもはるかに地道で厳しかったです。しかも日はジリジリと私達をやきつけ、足元はぬかるんだ泥で動きずらく、時間がたっていくにつれ手も腰もキリキリいたくなってきました。

そんな時、ふと顔を上げるといっしょに作業をしてくれている農家のおじさんが見えました。おじさんのおでこからも玉のような汗がたれていました。でもおじさんはぬかるんだ泥の中を嫌な顔一つしないで地道な作業を熱心に炎々とこなしていました。

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁

私はその姿を見た時単純にすごいと思いましたが、そして自分の毎日食べているお米のこころを考えました。おいしいといつも言っているおばっちゃんがお米一粒一粒の中にはおじさんの流していたたかさんの汗や照りつけられる太陽、手や腰のいたさがあったの一粒のお米だと。この時私はお米の中が見えました。

でもお米の中はおじさんだけではありません。

んでした。田植が終わってみんながへとへと
で泥だらけの中おじさんが最後にじゃべった
言葉は私は決して忘れません。
「私達農家は今日のように稲刈りまで毎日お
米を育てます。でもこのお米は私達のカだけ
ではおいしく育たないのですよ。雨が降って
日が照らして、澄んでいる空気があって、雪
が降ってその雪どけ水が流れる豊かな自然が
あるから育つのです。」
この言葉を聞いた時お米一粒の中に山が見

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁

え、雪が見え、雨が見え太陽も見えました。
小さなお米の一粒にはお米を地道に自然と向
き合って育てる人々や新潟の壮大な自然が四
季めぐっているからだ。と知りました。

始めばかりにしていた田植でしたが田植がす
ごく楽で適当にしていればあんなにおいしく
ホッとできるお米などは簡単には作れません。
私は田植しかしていませんがこれから秋まで
まだまだおじさん達と自然はお米を地道に丁
寧に思いをこめて作っていくのです。私は、

始めおいしいキラキラ輝くお米ばかりに目を
 うばわれてお米を作るおじさんや豊かな自然
 に気がつきませんでした。これは田植をしな
 ければ気がつけませんでした。でも私達の身
 の回りにはこのようにパツとする方ばかり見
 て本当に大切なことに気づけていないことが
 たくさんあるのもしれないと思いました。
 私は田植をしてからお米が前よりもすごく
 おいしくなりました。また今まで機械的にし
 ていたッいただきますッとッごちそう様ッも

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁

変わりました。た。たも文字のこの言葉には
 作。てくれる人々と育ててくれる大地とおい
 しく料理してくれらるお母さんなどの多くの人
 への感謝の思いがあるのだと思いました。
 小さく、輝いている一粒のお米の中身ミ。
 その中身があるからこそお米ばおいしいのだ
 と思います。